

保育所看護職が専門職として目指していること ～アンケート調査自由記述のテキスト分析から～

*¹千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科助教

*²関西医科大学大学院看護学研究科博士後期課程

*³順天堂大学保健看護学部教授

*⁴東京家政大学家政学部児童学科教授

中山 静和^{*1}・鈴木 千琴^{*2}・川口 千鶴^{*3}・及川 郁子^{*4}

要　旨

保育所看護職の学習ニーズを把握するための基礎的調査として、保育所看護職における保育所での保健活動状況と、保育所看護職としての学習の機会に関するアンケート調査を実施した。保育所看護職の学習の支援を検討するにあたり、保育所看護職自身の役割に関する認識についての把握が必要であると考えた。今回は、回収されたアンケート207件のうち「保育所看護職として目指していること」の自由記述内容267件を対象として分析した。その結果、【子どもと保護者を中心とした健康支援】【子ども自分が自分の体を守るために支援】【集団生活における感染症対策】【保育所看護職という専門職に関する認識】【周囲との関係性の構築】の5つのまとめが示された。保育所看護職は、子どもと家族を中心とした健康支援を中心核とし、周囲との関係性を構築しながら、医療専門職としての力を発揮することを目指していると捉えられた。

[Key words] 保育所看護職、専門職、認識

はじめに

近年の保育所に通所する子どもの現状として、慢性疾患を抱える子どもや医療的ケアを必要とする子どもの存在が指摘されている¹⁾²⁾。保育所での子どもの健康支援者の役割を担う保育所看護職の配置数は増加しているが、その役割を十分發揮するに至っていないことが報告されており、専門性を高めるための系統的な学習をする機会がないことも課題となっている³⁾⁴⁾。このような背景を踏まえ、保育所看護職の役割の發揮に向けた学習支援が必要であると考えた。そこで我々は、保育所看護職における学習ニーズを把握するための基礎的調査として保育所看護職における保育所での保健活動状況と保育所看護職としての学習の機会アンケート調査を実施した。学習への支援を考えいくためには、保育所看護職自身がもつ、自己の役割に関する認識を把握することが必要であると考えた。そこで本研究では、アンケート調査における自由記述内容に注目し、保育所看護職が職業として

目指していることについて明らかにすることを目的とした。

対象・方法

1. 対　象

全国保育園保健師看護師連絡会（以下、連絡会）の会員の看護師および協力が得られた地域の保育園看護職の情報交換・勉強会に参加した看護師を対象に、配付したアンケート調査における自由記述データを分析対象とした。質問紙は研究者らが作成した。

2. 調査期間：2017年12月～2018年1月。

3. 調査項目

自由記述の質問内容は、問1「日々の活動の中で、保育の受け入れを断るもしくは保育継続困難な健康状態であると判断する基準」、問2「保育所看護職として目指していること」、問3「保育所看護職として困っていること」の3点とし、回答を求めた。

4. 分析方法

テキスト分析には、KH Coder (Ver.3.Alpha.13m) を

使用した^{5)~7)}。自由記述の各問い合わせに対する回答内容をテキストファイルに1行ずつ入力してテキストデータとした。語の取捨選択では、今回の研究において「保育士」および「保護者」は重要な語であると判断し、強制抽出する語として指定して頻出語リストを作成した。共起ネットワーク分析では、最小出現数を10とし、強い共起関係ほど濃い線で示すよう設定した。共起関係を示した語群については、KWICコンコーダンスを用いてテキストデータでの文脈を確認した。

5. 倫理的配慮

研修の趣旨・目的・方法のほか、研究の参加は自由であること、質問紙は無記名で、所属や個人は特定されることではなくプライバシーは保護されることを依頼文に明記した。また、質問紙の返送をもって同意を得たものとした。本研究は東京家政大学の研究倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号H29-18）。

結 果

1. 対 象

回収されたアンケートは207件であった。自由記述欄の問2「保育所看護職として目指していること」への回答267件を分析対象とした。

2. 抽出語リストによる頻出語の確認

総抽出語数（分析対象のテキストデータに含まれるす

べての語の延べ数）は6,067語、異なり数（何種類の語が含まれているかを示す数）は878語であった。このうち分析に使用される抽出語は2,808語、異なり語数697語が抽出された。頻出語の上位150語のうち出現頻度が35以上のものは、1位から順に「子ども」「保育」「健康」「保護者」「看護」「保健」「保育園」であった。

3. 保育所看護職として目指していること（図）

共起ネットワークから、「保育所看護職として目指していること」の記述傾向は、【子どもと保護者を中心とした健康支援】【子ども自身が自分の体を守るためにの支援】【集団生活における感染症対策】【保育所看護職という専門職に関する認識】【周囲との関係性の構築】の5つのまとまりとして示された。

【子どもと保護者を中心とした健康支援】は記述件数が最多であり、「子ども達の健康を見守る」「子ども、保護者、職員に健康面の援助をしていきたい」「子どもを第一に考えている」などの記述がみられた。

【子ども自身が自分の体を守るためにの支援】では、「子ども達が自分の体に興味が持て、不調をうまく大人に伝えられるように」「成長して自分の健康を自分で守れるようになれるようサポートしていきたい」などの記述が多かった。

【集団生活における感染症対策】では、「保健の知識が向上すれば早い段階で異常の早期発見ができる」や「体

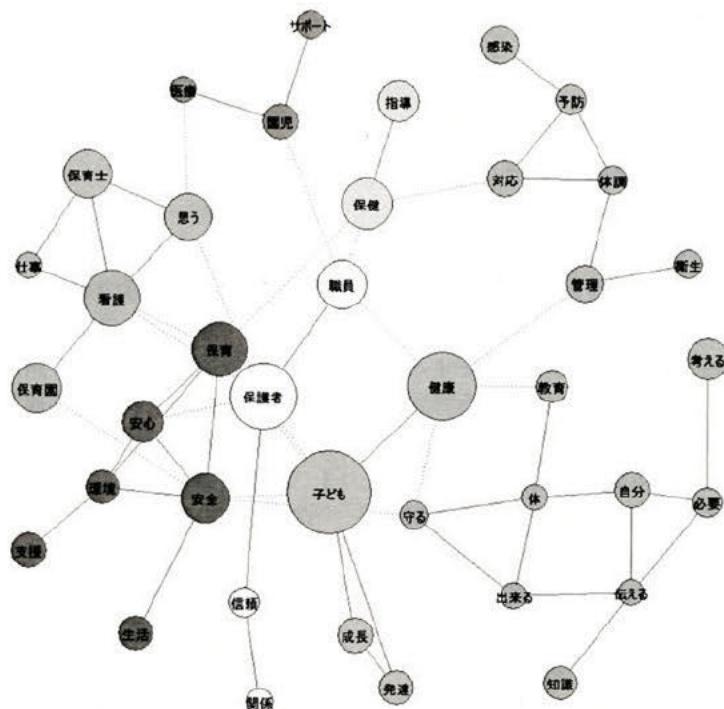


図 保育所看護職として目指していることの共起ネットワーク

調管理、衛生管理、感染症予防を職員・保護者と一緒に考える」などの記述がみられた。

【保育所看護職という専門職に関する認識】では、「保育園看護職という専門職としての仕事の確立」「専門性を持って保育士とは違う視点で役立ちたい」などの記述がみられた。

【周囲との関係性の構築】では、「子どもや保護者、職員からも信頼される看護師を目指している」「ささいなことでも相談してみようと思われる看護職を目指していきたい」などの園内での関係性についての記述が多くを占め、保育所外での関係では「園外関係者」が1件みられた。

考 察

今回の結果では、保育所看護職が目指していることとして【子どもと保護者を中心とした健康支援】が最も多く記述されていた。これは、アンケート調査での対象者の背景として約7割が小児看護経験を持っていたことに加え、保健活動として実施していると回答した項目の9割が子どもの健康管理に関連したものであったことが今回の自由記述に影響していると推察され、保育所看護職が目指していることの中核となる内容であると考えられた。また、子ども自身の力を発揮できることを目指した【子ども自身が自分の体を守れるための支援】と、保育所という生活の場を健康支援の対象と捉えた【集団生活における感染症対策】の2つの健康支援の方向性を重視できる保育所看護職であることを目指していると考えられた。特に感染症対策については、アンケート調査結果において8割が研修の受講経験を持ち、感染症対策関連の保健活動の実施率が9割に上ることからも意識の高さがうかがえた。さらに、保育所看護職は一人配置の場合が多い現状があり、専門性が十分に発揮できないことや学習機会が少ないことが指摘されている⁸⁾。このような中で、【保育所看護職という専門職に関する認識】の内容からは、保育士と異なる視点を持ち、健康支援が実施できる強みを認識しながら医療専門職としての役割を果たすことを目指していると捉えられた。また、【周囲との関係性の構築】が示すように、子ども・保護者・職員を中心とした保育所内の信頼関係の構築を重視したうえで、保健活動を進めていくことを目指していると考えられた。一方で、保育所外との関係について、外部の関連機関との関係性や連携に関する記述はほとんどみられなかった。保育所看護職による慢性疾患を抱える子どもや障害児、医療的ケア児に対する保健活動は実施されているが、そのような子どもが通う関連機関との専門的な

連携が十分とはいえない現状があるものと推測された。

結 論

保育所看護職は、子どもと家族を中心とした健康支援を中心とし、周囲との関係性を構築しながら、医療専門職としての力を発揮することを目指していると捉えられた。しかし、保育所看護職に対する専門的な支援体制が十分とはいえない現状の中で、保育所看護職が自身の役割への認識を持ち続けることは容易ではないと考えられる。このような保育所看護職にとって、学習の機会が増えることは、実践している保健活動への理解を深め、専門性の認識のさらなる向上につながる可能性がある。今後は、保育所看護職が置かれている状況や現在の学習状況、保育所看護職の経験年数、施設内での期待などの視点を追加し、さらに分析を進めていく必要があると考える。

本研究は、科学研究費助成金（課題番号18K10456）の助成を受けて行った。また、本研究の要旨は、第30回全国保育園保健研究大会（2019年2月：東京）にて発表した。

日本保育保健協議会の定める利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 阿久津智恵子他：食物アレルギー起因のアナフィラキシー対応に対する保育所看護職が認識する困難感. 日本小児看護学会誌 2016；25-3：1-8.
- 2) 金城やす子他：保育園における障害児や医療的ケア児の受け入れと課題－保育園看護職の配置との関連において－. 保育と保健 2014；21-1：37-40.
- 3) 日本保育協会：保育所の人的環境としての看護師等の配置. 厚生労働省の補助事業 平成21年度保育所の環境整備に関する調査（主任研究者：上別府圭子）. 2010；14-15.
- 4) 山本弘江他：保育所における保育所看護師等の保健活動に対する自信とその影響要因について. 小児保健研究 2016；75-1：63-68.
- 5) 樋口耕一：KH Coder 3リファレンスマニュアル（2018年8月16日取得）
<http://khcoder.net/dl3.html>
- 6) 樋口耕一：KH Coder 3 チュートリアル（2018年8月16日取得）
http://khcoder.net/kh_tuto.html
- 7) 樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—. 京都：ナカニシヤ出版. 2014.
- 8) 八田早恵子他：保育保健を支える看護職の実態. 名桜大学紀要 2015；20：65-70.